

ユニバーサルデザインの 庁舎って どんなだろう？

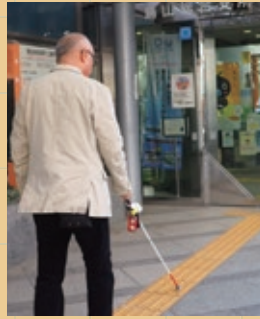
視覚障害

入口がわかること、人につながる

- 誘導用ブロックと音サイン(音声誘導装置)で入口がはっきりわかること、案内カウンターなど人がいる場所へ確実につながることが必要です。

できるだけ一人でも行けるように

- 点字ブロックや音サインがエレベーターや各窓口へつながっていれば、一人で目的の窓口まで行くことができる人もいます。誘導してくれる人を待たなくても良いので、助かります。



聴覚障害

わかりやすい案内サインや文字情報

- 見通しが良く、見やすい高さにあるとわかりやすいです。音声で案内する時はあわせて文字情報が必要です。

手話などのコミュニケーション

- 案内カウンターをはじめ、窓口では筆談や手話などのコミュニケーションができることが重要です。



現在、世田谷区役所は建て替えの計画を進めています。

「だれがどんなことに困っている？」

「こんな設備や対応があると助かる！」を

WS参加者で考えました。

車いす使用

全エレベーター

- エレベーターが複数あっても、車いす使用者対応ボタンが1基しかついていないことがあります。到着したエレベーターが混んでいたり長く待たされたりすることがあるので、すべてのエレベーターに車いす対応ボタンが必要です。かごの大きさもできる限り大きいものが必要です。

トイレ

- 多目的トイレは数が少ないと混みあって使えないことがあります。一般のトイレが少し広めだったり手すりがついていたりすれば、使える車いす使用者もいます。いろいろなタイプのトイレを選ぶことが大切です。

車いす用駐車スペース

- 車いす用駐車スペースは、1台分では足りません。また、乗降時は傘がさせないため屋根が必要です。



共通して

声かけ

- 声かけはとても大切です。見えない人や、自分から伝えることが苦手な人もいます。ヘルプマークをつけていることもありますので、積極的に声かけしてもらえると助かります。



異性介助のできるトイレ

- 異性の人でも手助けや介助がしやすいように、独立した男女共用トイレも必要です。

補助犬対応

- 盲導犬はもちろん、介助犬や聴導犬の利用者もいます。補助犬への理解をひろげるとともに、補助犬が待ちやすいように、いすの周囲のスペースに余裕があると助かります。

発達障害・自閉症

調整できる工夫

- 人によって様々な特徴があります。たとえば音や光に敏感な人もいるので、音量や照明の強弱を調整できると助かります。

落ち着ける場所

- 初めての場所は不安になりがちです。パニックになった時に、困われた落ち着ける場所(カームダウンスペースなど)があると助かります。

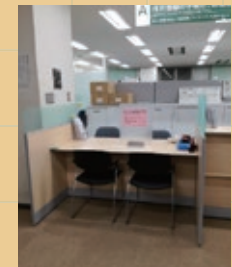
これは、「自閉症のある人たちとその家族への理解と支援」のメッセージが込められた「パズルリボン」です。車に貼れるマグネットステッカーなどがあり、購入すると一部がチャリティ活動に充てられます。
(問合せ先 日本自閉症協会)



精神障害

プライバシーが守られる空間

- 障害があることを知られたくない人、だれかに見られているような気がする人もいます。個別の相談をする時は、囲われた場所があると安心できます。



子育て中の人や
外国人の立場からも
ヒアリングして、
計画に反映させます。